

日本歯周病学会 第85回 歯科衛生士教育講演会 報告

1. 研修会名：日本歯周病学会第85回歯科衛生士教育講演会（日本歯科衛生士会第5次生涯研修）
2. 主催：特定非営利活動法人 日本歯周病学会（歯科衛生士関連委員会）
3. 協力：一般社団法人 香川県歯科衛生士会
4. 日時：令和元年 12月 8日（日）10：00～15：15
5. 場所：香川県歯科医療専門学校 7階 8020ホール

6. 演題：① 歯周治療に取り組む歯科衛生士のために
-プロービングの知識とテクニック、そして歯周疾患の新分類-
② 歯科治療におけるプレゼンテーション
-保険指導や症例報告、発表へつなげるために-

7. 講師：坂上 竜資（日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会 委員長）
茂木 美保（日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会 委員）

8. 研修単位：①②の両方に該当する場合は、それぞれの単位取得が可能

①日本歯周病学会会員の場合

- ・認定歯科衛生士制度における申請時の教育研修単位（参加者8単位）
- ・更新時の生涯研修単位（10単位）

②日本歯科衛生士会会員、会員外の場合

- ・第5次生涯研修制度に基づく専門研修単位（歯周治療の基本技術）
歯周治療の基礎 A 歯周病とは（原因、病態、分類等） 1単位
検査と評価 A 歯周組織検査（視診、プロービング等） 1単位
口腔衛生指導と生活習慣指導 B 行動変容に必要な知識と技術 2単位

9. 内容：

受講者は、開催地の香川県（72名）のほか、岡山・兵庫（各8名）、徳島（7名）、愛媛（3名）、大阪・京都（各2名）、愛知・山口・熊本・東京（各1名）から集まった。その人数は106名であり、そのうち日本歯周病学会会員の出席は37名であった。なお、香川県の日本歯周病学会認定歯科衛生士数は、2019年10月31日現在12名である。

はじめに、香川県歯科衛生士会木戸会長の挨拶があった。次に茂木講師より、日本歯科衛生士会の生涯研修制度および日本歯周病学会認定歯科衛生士制度等を説明し、卒後研修の重要性を伝えた。

講演前半は、茂木講師により、歯周治療におけるプレゼンテーションについて講演を行った。プレゼンテーションとは、発表することだけでなく、保健指導や自己紹介もプレゼンテーションの範囲であること、プレゼンテーションマインドとして、「相手を理解する」、「相手に理解される」と

いう心構えが必要であり、主役は話し手ではなく聞き手であり、コミュニケーションの重要性を話した。

コミュニケーション環境を理解するために、「ハイコンテキストとローコンテキスト」という概念、行動変容を起こすためのかわり方について解説し、ロールプレイを行った。さらに通じにくい環境（ローコンテキスト文化）で使われることを前提に開発されたスキルとして英語のプレゼンテーションについて7つのルールとして紹介した。

プレゼンテーションの一つである症例発表については、日本歯周病学会認定歯科衛生士試験にて合格にいたらないケースを例に挙げながら用語や規格性ある口腔内写真撮影について説明し、診断については、現在使用されている歯周疾患の分類を説明することで後半の講演に繋げた。

最後に英語のプレゼンテーションの7つのルールに基づいて、症例発表作成の流れやポイントについて、まとめた。

講演後半は、坂上講師により、「歯周治療に取り組む歯科衛生士のために-プロービングの知識とテクニックそして歯周疾患の新分類-」と題して行われた。講演を6つのパートに分け、まず（1）歯周病の特徴と治療では、歯周炎の進行パターンを中心に提示した。（2）歯周病診断のこれまでの基準では、日本の保険診療制度の分類、日本歯周病学会が提唱してきたこれまでの分類法を示した。

（3）歯周病の予後判定では、McGuire と Nunn(1996)の分類、Kwok と Caton(2007)の分類を示した。

（4）歯周病診断の新基準では、AAP と EFP の新分類をステージとグレードを紹介し、今後日本においてはこの方法を併記する方針であることを説明した。（5）認定衛生士の必要性和申請法では、認定衛生士の価値と申請における注意事項、検査の重要性を説明した。（6）今後の展望では、歯周病治療の特効薬が見つかっていない現在、歯周病治療の鍵は「人生の早期から歯周病をコントロールすること」と「口腔の健康を維持すること」であるとまとめた。最後に、今後どこまで実現できるかは、歯科衛生士の力に負うところが非常に大きいことを説明した。

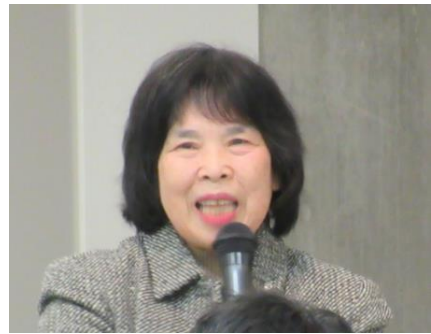
その後、全員でプロービングの実習を行った。正確な歯周ポケット検査は必須であること、プロービング時には根形態、表面性状の確認を同時に行うこと、ルートプレーニング前後には根面の確認を行うこと、プロービング時には歯周ポケットの抵抗性とプラーク付着を確認することをお話した。さらに、根面に残った歯石を指先で探知するためには、指先の感覚を鍛えるトレーニングが必要であることを、おはじきと研磨紙を使って体感してもらった。こつとしては、プローブを軽く保持することをお話した。

なお、アンケート回答者は104名であり、日本歯周病学会認定歯科衛生士は33名、今後習得する予定がある方は70名（未記入1名）だった。

演者（坂上竜資委員長・茂木美保委員）



香川県歯科衛生士会 木戸会長



手元カメラによるデモの様子



会場の様子（ロールプレイ・机上実習と認定歯科衛生士によるレクチャー）





香川県歯科衛生士会執行部の皆さまと演者

